

或る椎茸協業体の経営実態分析

九州大学農学部 青木 尊重
長崎県対馬支庁 平間 益喜

1. 協業体構成員の労力・田畑・森林構成の現況

対馬の林野率は87%にも達するが、現在の農家経済は零細な自給的農業と山林からの林産物とイカ漁・ワカメ養殖等を中心とした漁業とに支えられている。

本協業体は4戸の集団で、連年種駒40~50万個をうつ経営規模で、対馬では中規模の集団である。労働力構成その他については、表-1のとおりである。山林については、スギ・ヒノキの人工林約54haと広葉樹林約107haをもち、そのなかのコナラ天然生林49haを軸とした椎茸原木林の手当てをしている。

本協業体員のなかには20年以前から椎茸栽培に従事していた人がいて、昭和38年頃までは直下式の乾燥方

法を採用していた。昭和41~45年にかけては林業用苗木の集団経営に取組んでいたが、造林地の拡大とともに天然生コナラ林を椎茸の原木林として生かした林業経営を展開すべく、昭和46年の長崎県の新農政事業の発足を契機として、昭和49年までの4年間は専ら規模の拡大・生産量の増加・品質の向上に努めてきた。

今後は、広葉樹林107haの活用とコナラ林の施肥改善とクヌギ林の育成を図るとともに、町委託の現地適応品種試験-15品種・種駒8,674個・原木562本一の成果を活用することにより椎茸主産地としての地位向上を目指している。現在、香信と冬茹の比率が7対3~6対4であるのを、今後は5対5~4対6となるように生産目標をおき、種々研究を積み重ねている。

表-1 本協業体構成員の労力・田畑・森林構成の現況

—— 昭和49年 ——

構成員	労働力(人)		田畑		林野面積(ha)	スギ(年)			ヒノキ(年)			コナラ(年)			広葉樹天然林(年)		
	男	女	(ha)	(ha)		20以下	21~30	31以上	20以下	21~40	41以上	10以下	11~20	21以上	20以下	21~40	41以上
	A	2	2	0.4		0.3	55.22	6.95	2.57	1.25	6.52	0.38	0.09	2.00	21.50	0.40	3.49
B	2	1	0.4	0.2	5.01	2.20	0.13	0.18	0.20	-	-	-	0.11	0.40	-	1.27	0.52
C	2	2	0.5	0.2	74.11	15.87	1.79	2.75	7.49	0.04	0.03	0.87	2.24	9.68	21.72	2.83	8.80
D	1	2	0.4	0.2	26.19	3.01	1.63	0.44	0.14	-	0.02	6.00	1.00	5.00	2.94	1.81	4.20
計	7	7	1.7	0.9	160.53	28.03	6.12	4.62	14.35	0.42	0.14	8.87	24.85	15.48	28.15	15.40	14.10

2. 本協業体の組織・活動・経営成果

庶務会計・企画・業務技術の係を定め、責任分担制をとり、生産技術の向上を目指している。とくに作業遅れの援助・資材の配分と融通・研修・出荷等での協業化が徹底している。平等化を指向して努力している。

本協業体の経営成果を表にしたのが、表-2である。利益356万円は、櫛木増殖分336万円と自家労賃なり原木代なりを低くおさえた差額の19万円と考えられる。もしも櫛木代を1本当たり7~8円上積みすれば

利益は0となる。結局のところ、自家労働見積額の360万円と諸機材の増殖分が本経営体の成果とみなされよう。したがって、“マルホダ”の歩止りを如何に維持・向上させるかが生産上の重要な要素となるわけである。

表-3は、本協業体の部門別年間投入労力の内訳である。そのうちで、男子の16.5%分と女子の9.5%分が育林関係に投入されている。これが連年蓄積されて自立林家への道程を辿るのである。表-5は、A家の主要作目部門別の年間労力配分を示したものである。

表-2 乾椎茸生産の経営成果表

— 昭和49年 —

種 別	金 額 (円)	構 成 比		内 訳
		(1)	(2)	
1. 総 収 益	11,942,504	100.0	100.0	
(1) 所得的収入	8,578,080		71.8	2,898kg×2,960円
(2) 櫛木増殖分	3,364,424		28.2	2,5850本×130.16円
2. 生産原価	7,472,496	62.5	100.0	
(1) 所得的支出	1,838,000		24.6	1,199,000円+403,000円+226,500円
(2) 自家労働見積額	3,586,500		47.9	1,883,500円+1,703,000円
(3) 減価償却費	2,047,996		27.5	
3. 総 収 益	4,470,008	37.5	100.0	
(1) 販売管理費	857,808		19.2	8,578,080円×0.1
(2) 資本利子	56,789		1.3	5,124円+51,665円
(3) 利 益	3,555,411		79.5	

表-3 主要作目部門別の年間労力配分 (%)

	耕作関係	椎茸関係	育林関係
男子	15.5	68.0	16.5
女子	29.3	61.2	9.5
計	21.9	64.9	13.2

表-4 昭和49年度分生産用出費

4,753,304 円の内訳

種 駒 代	円	%	光 熱 費	円	%
災害保険費	860,000	18.1	雇用労務費	235,000	4.9
農 薬 費	19,000	0.4	販売諸掛費	857,808	18.0
施設および諸材料費	6,000	0.1	作業衣代	24,000	0.5
農 具 費	465,000	9.8	減価償却費	2,047,996	43.1
	12,000	0.3			

表-5 A家の主要作目部門別の年間労力配分 (日)

作 業 種 目		父	母	本 人	妻	作 業 種 目		父	母	本 人	妻
椎 茸 栽 培 関 係	原木伐採			3		人 工 林 保 育	地 拵 え	7		3	2
	原木玉切			15			植 栽	2	3	1	1
	接 種	12	12	12	12		下 刈	40		30	20
	ほだおこし			15	10		莖 切	5		3	3
	ほんぶせ			10			除 伐	5		5	18
	防風施設			2		コ 林 ナ 保 育	整 理 伐				2
	侵水・打木			2			施 肥				1
	集材・運材			15	10	そ の 他		5	23	19	13
採 取 関 係	採 取	30	20	50	20						
	乾 燥			20	20						
	選 別			3	5						
	包 装			3	3						